
支配者

柊鏡

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

支配者

【Nコード】

N8357F

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

M星人は半年前から日本列島を調査していた。

支配者

M星人は半年前から日本列島を調査していた。

地球と云う惑星に知的生命体が居るのか如何かをリサーチに
来ていた。日本列島は地球でも進んだ地域なのだと云う。知的生命
体を探すにはもってこいだった。

地球で最も繁殖しているのは猿に似た二足歩行の生き物だった。

彼らは寝る間も惜しんで働いていた。

M星人は彼らを観察する事にした。

列島に棲む二足歩行の猿達は規則正しく生活していた。都市を走
る電車は一分も遅れはしなかった。

M星人は其処に目を付けた。

知的生命体を発見するには、この正確さの正体を確かめるべきだ
と考えた。強力な知性があるのだろう。

M星人は人間になりすまし、地球へ降り立った。

M星人は彼らの一人に訊ねた。「如何して、そんなに正確なので
すか？」

訊ねた相手はケータイを開いて見せた。そこには四つの数字が浮
かんでいた。

M星人は頷いた。

一步又、知的生命体の発見に近づいたようだ。

調査を進める内に解って来たのは人類を操っている黒幕の存在だ
った。黒幕は列島のそこら中にあるばかりか、二足歩行の猿と常に
タッグを組んでいた。

驚くべき事にこの黒幕と云うヤツは二足歩行の猿を自由自在に操
っていた。猿たちは常にそれを見て、気にかけていた。

猿達は、黒幕の指示通りに動いていた。

M星人は考えた。

考えに考えた。

如何も、二足歩行の猿が知的生命体と云う予測は間違っていたようだ。人類は自分の意思ではなく、その黒幕の言いつ通りに生活していると思えなかった。

そして結論を出した。

地球には知的生命体が確かに存在する。その名前は《時計》と云う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8357f/>

支配者

2010年10月11日02時46分発行